

## 平成 28 年度第 1 回行財政改革推進委員会における 委員意見及び対応状況

### ■「評価（Check）」関連

- ◆「取組の総合的な評価」については、効果があった視点の個数を記すようになって  
いるが、どの視点から効果があったかについて、どこに記入するのかがわかりづら  
い。
- ◆評価（CHECK）について、例えば、ヒト・モノ・カネ・情報を軸としたレーダー  
チャート的な、わかりやすいものとすべきである。
- ◆行財政改革プログラムが総合計画の実施に対して、どれだけ貢献できたかという  
ところを評価する項目がよくわからない。
- ◆事務事業の評価シート中の「必要性」「有効性」「効率性」欄を参考に、これを「ヒ  
ト」「モノ」「カネ」「情報」に置き換え、それぞれで評価を行った方がよい。

⇒「取組の総合的な効果」の項目を設けた上、ヒト・モノ・カネ・情報・その他のうち、どの  
視点から効果があったかを選択する区分欄と、その理由欄を設定

⇒「事務事業等への貢献度」欄を設定

- ◆質的改革を進める上で、職員自身が指標を考えられないような状況であるのであれ  
ば、職員の研修等や、その設定を行う上での支援を行革室から行っていく必要があ  
る。
- ◆職員の自己都合にならない指標設定が必要である。

⇒職員の改革意識の向上に向け、創意工夫による改革の事例紹介も含めた出前講座を実施  
（対象：庁内全局区等 実施回数：44 回 延べ受講者数：1,073 名（H28 年 12 月現在））

⇒評価シートの記入について政策評価とあわせてサポート研修を実施予定

### ■「改善（Action）」関連

- ◆効果が出ていないため改善を要するといった場合の改善過程を記入する項目がよく  
わからない。
- ◆問題、課題提起が、積み重なっていった、申し送られていくような評価とすべきで  
ある。

⇒評価（Check）の「事務事業等への貢献度」において「C：貢献できたが課題もあった」「D：  
貢献できなかった」等を選択する場合の改善を要する際は、改善（Action）において、「Ⅲ：  
目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続」を選択し、その改善内容を「方向性の  
具体的内容」に記入（状況によっては「Ⅳ：状況の変化により取組を中止」を選択）

⇒評価（Check）の「事務事業等への貢献度」において「X：測定できない」を選択する場合  
には、次年度の評価に向けて貢献度（取組効果）を把握する手法を検討・構築するもの  
とし、その内容を「方向性の具体的内容」に明記

⇒民活を行った場合のモニタリングなど改革全体を通じた課題については、とりまとめを行  
う総務企画局において、新たな改革課題を設定